

ふるさと（霞ヶ浦を中心とした周辺地域）の歴史・文化の再発見と創造を考える

ふるさと 風

第158号（2019年7月）

我が師を追悼して

木村 進

本会の主査である白井啓治（ひろじ）氏が6月28日に癌のため亡くなられた。74歳であった。最初に入院したのが本年2月、4月末に癌のやつを平成に置き去ってきたといつて一旦退院したが、未だ完治はしていなかったとして6月2日に再入院した。そして数週間で戻ってくると思われ皆が思っていた。しかし26日に容態が急変し危篤状態となりその2日後に、ついに帰らぬ人となってしまった。

毎回この会報の巻頭に「風に吹かれて」という文を書いていただいていたが、それもかなわなくなってしまう。白井先生は当会にとつては実に偉大な方であり、本会を立ち上げられ、また聾啞女優・小林幸枝を発掘して新たな朗読舞集団「ことうば座」を立ち上げられてこの地に文化を創造することに心血を注いでこられた。その偉大さゆえに残された会員でこの会を続けていくことはかなり無理もある。しかし、師の残された意思を尊重し、何とかそれを発展させていくのも残されたものの使命でもある。

・ 疲れたら休めと野の花の言っ

これは先生の残された一行文であるが、先生！しばらく天国でゆっくり休んでいてください。そして残された私たちを見守っていてください。

・ 雑草だって目守（まも）れば花のきれい

先生お得意の「見上げたもんだよ 屋根屋の輝（ふんどし）」といつてもらえる日が来ると信じ・・・。そして、それに「いよ！ありがとう」っていえる日を目指していきます。それまでそつと応援していきましょう。

まさか、こんなに早く・・・ 木下明男

八郷に移住してから、ギター館時代から、友人になった・・・□元脚色家、映画監督等をしながら東京で活躍、現役を離れ隠棲生活を・・・妻の実家近くにと石岡に来たとか？何もするつもりもなかったようだが、周りから請われ小さなグループ「風の会」を結成、ここで幸恵ちゃんを見出し、ギター館に現れる・・・？10年位前ですか、突然に表れ、ここを発信場所にして「常世の国恋物語 百」を書きたいので協力をしたい・・・？ギター館を使って色々考えたいという話を持ってきた人は初めてであった。即座に協力を約束！

〈常世の国の恋物語〉

- No. 1 恋瀬川物語 (07/02/18)
- No. 2 古里は春の夢 (07/02/18)
- No. 3 奴賀比売物語 (07/05/20)
- No. 4 風貴 (07/05/20)
- No. 5 漆黒と雑木林と星たち(詩劇) (07/07/15)

- No. 6 風に戯れて恋歌の呟いて (詩舞)
- No. 7 常陸の国の万葉集 (詩舞)
- No. 8 「詩舞」さとの恋歌 (07/09/29)
- No. 9 新鈴が池物語 (07/09/29)
- No. 10 新説柏原池物語(07/10/21)
- No. 11 里の舞い歌 (07/12/16)
- No. 12 緋桜怨節 (07/12/16)
- No. 13 鳴滝にて (08/02/17)
- No. 14 潮の道余話 (08/04/20)
- No. 15 馬滝「のっぴりぼうの涙」(08/04/20)
- No. 16 風の姿 (08/06/15)
- No. 17 悪路狼夢の歌 (08/10/19)
- No. 18 朗読舞「万葉集ひたち恋歌」(08/10/19)
- No. 19 新鈴が池物語(08/12/21)
- No. 20 里子「大地の舞い」 (09/02/22)
- No. 21 小町「艶麗なる心歌」 (09/06/21)
- No. 22 ふるさとの風にふかれて (09/06/21)
- No. 23 「縄文の舞」 (09/6/21)
- No. 24 「閑居山磨崖仏秘話」 (09/10/18)
- No. 25 「トキさんの天狗の舞」 (09/12/20)
- No. 26 「透明な青の色は龍の流した涙の色」(10/6/18-20)
- No. 27 「難台山城 落城哀歌」 (10/11/12-14)
- No. 28 「流海の舞(うみのまい)」 (11/6/17-19)
- No. 29 「湖の弦音(うみのげんね)」(11/11/11-13)
- No. 30 「平将門伝説・苅萱(さぐら)姫物語」(12/6/15-17)
- No. 31 「涸れた龍の涙」(12/12/1-2)
- No. 32 「ふり返ればそこに恋歌が」(13/6/15-16)
- No. 33 「平将門伝説・苅萱姫物語」(13/10)シアターx
- No. 34 「風に舞う古歌の恋詩」(14/6/14-15)
- No. 35 「緋桜怨節(富浦沢薬師堂秘聞)」(15/6/20-21)
- No. 36 「里山の風に恋歌の舞う」(16/6/18-19)
- No. 37 「な(汝)は愛しきもの」(17/6/11)
- No. 38 「Ryu(龍)」(18/7/16)

どうみても世の中が狂っている。気候変動ではない。人間活動が常軌を逸している。

人類は他の動物に比べ、はるかに知能が優れ、道義を弁えた高貴な生物：などと自己礼賛する向きもあるが、何を「寝言」仰いますか？

同じ大型霊長類でも、オランウータン、ゴリラ、ボノボは仲間同士の殺し合いはしない。人類とチンパンジーのみが、凶暴な殺し合いをする。しかもチンパンジーは子供を殺して食べる事さえある。ゴリラは、あんなゴツイ顔をしているが、心は優しく、仲間を殺すなどの暴力は、厳に慎むように規律が浸透している。人類より、精神構造が高度に発達しているとも言える。

更にボノボは、縄張りの境界線で群れと群れが衝突しそうになると、互いに群れの雌を相手のボスに差し向け、慰め合い、闘いは起らないという。人類が学ぶべき高等の「サル智慧」。

大方の人類は、道義を弁える理性を持っているが、一部、手の付けられない凶悪犯がしばしば出現する。古今東西よく見られる現象である。しかし、それよりも恐ろしいのは、凶行の実行犯ではなく、現場を統括指揮し、人を操る立場の者が、世にも恐ろしい計画を企て、皆殺しの命令を下す最悪の事例だ。いわゆる戦争犯罪人だ。ムソッリーニ、ヒトラー、スターリン、東条英機等歴史上、幾多の犯罪者がいた。敵に対しても味方に対しても、命の尊厳を重んじる姿勢など、微塵も見られない。己の勲功だけが重要。この事実こそ人類が長い間、積み重ねてきた歴史の醜い真実である。大河ドラマ「西郷どん」を見て、安政の大獄に腹が立つ。

米国では「進化論」の授業を禁ずる州が多数。バイブルだけが総てであり、神が人間を創造したと信じ、サルからヒトが進化したとする進化論は暴論。授業をした教師は殺されている。

また、かつて英国の王立考古学会は、アフリカで若い学者が化石人骨発見の報告をすると、袋叩き。サルとヒトの中間に位置する化石など、いたずらの偽物と決めつける。もし人類に進化が行われたとするなら、アフリカのような野蛮な所でヒトが進化するわけがない。当然この英国あたりで進化したに違いない：とされた。権威ある老学者は、その地位を維持するのに懸命。

インドのヒンズー教徒は、牛を神様の使いとして崇める。その為、他教徒が牛肉を食べたり、牛に労働などさせれば、その人を殺す事もあるという。原理主義の物凄さは、イスラム教だけではない。狂った信者の執念は奥が深い。

所でかなり文明が進歩しているにも係らず、なぜにこうも世が乱れ、争い事が止まないか？ 人類は「万物の霊長」などと、自己陶醉の言葉だけが先走り。実質はドロドロの生存競争。弱肉強食の弱い者いじめ。他をこき落とす、己の優位のみを専念する。狂った世界だ。

*

さて狂気の沙汰は無数にある。世界的には、前任者懸命の成果の例えは、EU・パリ協定・

TPP等、政権が代われば簡単に反故・離脱。更には史上幾多の〇〇合意破棄、△△条約破棄↓戦争突入等、いずれも国際道義無視。

近年は知的財産権侵害のため、日本開発の新幹線は、競争入札で、中国に敵わなくなった。その他幾多の工業製品など、かつて日本が犯した罪が逆に今、途上国にやられっぱなし。

企業や政府も、かなり信用できない。大企業の検査記録改竄、政府の公文書改竄や隠ぺいなど多々あるが、何が一番狂っているかというと、日本の国会。殆どの政府提案は野党が寄ってたかつて潰そうとする。与野党どちらが狂っているのか、双方なのか、下品極まりない。働き方関連法案では、何日も野党は国会出席拒否。出席もしないで審議未了：とは、どう解釈すればよいのか。大臣の解任決議案の連発。ダラダラと日を送り、無駄な費用を増やし続ける。足の引っぱり合いを楽しんでいるみたい。世界情勢が緊迫しているというのに、カケだ、モリだとケンカしている場合ではない。国民はもう飽き飽きだ。真相究明は必要。だがそんなものは、何らかの小委員会に任せればよい。

多くの無駄遣いが国の借金を1071兆円に膨らました。世界最大の借金王国。国会議員に重大な責任がある。勿論そんな議員を選出した国民も責任重大。代議士は、借金を増やす議決をした責任上、自分でその一部を返済しろ。自民党はGDP比1%の現状国防費を、EU並みに2%に引き上げようとしているが、憲法との整合性をどう考えているのか。軍事費増で国威発揚？ 最低の発想だ。

それに衆議院の決定が参議院に優先する件がいくつもあるのなら、巨大借金削減策として、参議院を無くすればよい。そして議員数も給料も、もつと減らせないのか。会社運営なら当然行われる決断である。逆に一票の格差解消のため、国会議員数の増加を目論んでさえている。

それ政党交付金だ、政務活動費だと、国税の濫用。国会議員はサラリーマンか？ 名誉職なら借金はず前で支払え！ とにかく国の借金は、代議

士には、相当分を支払うべき義務がある。

ドイツのメルケル首相は、ある年度末に余剰金が生じた。国民は壊れた道路の補修に回せと迫った。しかし首相はそれを退け、全部、国の借金返済に回したという。政権を担う者は、世論に惑わされず、これくらいの非情の決断が必要である。借金の付けは、次世代に残すな！

政府は1071兆円の借金など、国有財産を処分すれば、チャロイもんだと考えているかもしれない。総理の知人に国有地を8億円もおまけして売却した事は国民を欺くもの。今、保持する国有財産は、今の入達だけの財産ではない。子孫にもその所有権が存在する筈。

与党は多数決の原理でまず集票に専念する。その為に補助金濫用で、要らざる補助金をばらまく。働けるのに生活保護費を支給する。後継者がいなく、活用しない農地を「耕地整理」して、莫大な補助金を出し、多額の国費を浪費する。

更には巨費投入の諫早湾の水門は、裁判の結果、閉じて開いても、国は漁民・農民双方に補償金を支払っている。なぜにそんなものを造ったのか？ その他多くの干拓事業や、堤防建設。巨大ダム。高速道路網の過剰整備。港湾・空港。本当に国民に必要不可欠の緊急を要する事業だったのか？ 非情の決断はできないのか？

人類は大脳進化で、盤石の文明を確立し、神の領域に近づいた？ とんでもない。私に言わせれば、片手落ちの、兎戯に等しい。そう言われるのが嫌なら「万物の霊長」などと、自己陶醉する誉め言葉は止める！ この惑星に君臨する王者などというの、あまりにもおこまがしい。

己をコントロールできずに、無尽蔵に人口を増やし（地球の人口収容能力は50億人。現在す

で10億人。今世紀半ばには100億人に達する見込み）、互いに縄張り主張で諍いが絶えない。諸悪の根源は人口過剰。食い物の奪い合い。野生動物と何ら変わらず。

小さな島でバツタが増えすぎ、草を食べ尽くし、集団飛蝗の成れの果ては海の藻屑。人類の終末時計は残りあと2分とか。人類こそ正に「準絶滅危惧種」の筆頭だ。狼は食糧が少なければ、交尾をしない規律をしっかりと守っている。

*

① 【狂い】の例を挙げ、個別に検討を加える。
地球環境の汚染

『現在の地球は子孫からの預かりもの』という概念から考えれば、20〜21世紀の人類は「ものを造り過ぎる。物を作れば当然、カスや屑が増える。エネルギーも大量に消費する。更に空気や水や土壌を汚染する。CO2濃度も、200年前の産業革命当時は380ppmであったが、現在は日本で408ppmと実に45%も上昇。このまま増え続けると、惨憺たる悲劇が待っている。

気温上昇は、海水面の上昇ばかりでなく、北極圏の水が融解し、寒気を固定できず、寒暖の変動が激しくなる。その結果は、爆弾低気圧などで集中豪雨。山崩れや河川水急増で堤防決壊。

地球温暖化で最も恐ろしいのは、マラリアなど熱帯病が、多くの人口を抱える温帯地方にも常在化する事。媒介する「蚊」などが、緯度を遡り、生存範囲が広がるからだ。日本脳炎を媒介する「コガタアカイエカ」は東北北部には生存しなかったが、今は北海道南部にまで生存する。日本脳炎は人畜に莫大な被害を齎す。

温暖化防止対策費を生むため、ニュージーランド政府は、羊のゲップやおならのメタンガスは無

視できないとして、羊に多額の税金をかけている。人間も過食で、ゲップやおならの多発は、地球温暖化の大きな要因。

過剰な物作りは水俣病や、イタイイタイ病など、公害も多発。いずれも経済第一主義のため、吟味不足で、要らざる物造りの過剰現象が原因。

世界各地でクジラの遺体が多数。胃の中には、プラスチック製品が大量に。海底はプラスチックの微細なゴミで生態系が狂っている。世界で年間4億トンのプラスチックごみは、地球破滅につながる。それに貴重な動植物の乱獲。メタルの枯渇。愚かなりし人類。

日本でも経験した、工場や自動車の排気ガスで、今や中国やインドは喘息や肺炎多発。人類に知恵があるならば、一向に止まらないその傾向を早急に修正しなければならぬ。子孫が安住できる環境整備は、喫緊の課題である。

*

② 貧富の差

人類史を顧みれば、遊走生活をする狩猟採集時代は、衣食住について、恐らく貧富の差は殆どなかったであろう。いくつかの家族から、屈強の男が狩りの協働作業に当たる。当然猟の成果は、均等配分。貧富の差などなかった筈。

人類に貧富の差が生じたのは、ほぼ1万年前、メソポタミアあたりで、農耕牧畜の定住生活が始まってから。最初はみんな平等に働き、均等に分け前を受けていたであろうが、その内、何かしら権力を発揮し、自らは働かず号令をかける支配者が誕生した。汗水流して働く労働者と、働かずに威張りちらす一握りの支配階級が徐々に生まれた。それが尾を引き、今日では大きな格差に発展。資本主義社会の宿命なのか矛盾だらけ。いや共産主

義社会でも、独裁性が強く、支配階級と一般大衆との間には、やっぱり格差が生じているようだ。

動物世界にも階級制度は見られるが、人類は折角大脳が発達したのだから、一様に不満のない、平等社会が構築できないものかというも思う。あくまでも強い者が保護されるように世の中の仕組みが構築される。これを改めなければ、人類は真の進化をとげた高等生物とは言えないであろう。

【参考】長者番付16年度世界第1位は、米国マイクロソフトのビル・ゲイツで、9・5兆円。17年度はやはり米国「アマゾン」CEOのジェフ・ペズで11・8兆円と言われる。いずれの国でも、わずか数%の富豪が、国の富の8割方を占める現況である。真の平等は永遠の幻か？】

③武器の威力拡大

これはなんたるこっちゃ。狂った人類が反省すべき最大の課題だ。今、世界9か国(米・ロ・英・仏・インド・パキスタン・イスラエル・中国・北朝鮮)に、核兵器は約15000発存在。偽文明が開発した悪魔のオモチャの廃絶を訴え、オバマ前米国大統領はノーベル賞を受賞した。悪魔と良心との葛藤。人類はいい加減目を覚まし、武器の威力拡大競争に終止符を打つべきだ。

そこで私の提案。日本は憲法で武力を持たない事になっている。ならば半端な武器など持たずに、その軍事費を徹底的に福祉医療、例えば、がんの予防・早期発見・早期治療開発に全力投入すれば、全世界から尊敬され、人類を救う事になる。iPS細胞による早期治療が活用できれば多くの患者を救う事になる。善は急げ！何を犠牲にしても、早速取り掛かるべき事案だ。

*

④原発

東日本大震災における原発事故は、その恐ろしさをいやというほど見つけた。人間の習性は、分かっちゃいるけど、なる事ならば余計な経費は省きたくなる。1100年前の貞観地震では20mを超える津波があり、2011年の東日本大震災では、岩手県大船渡市で、津波の高さは40・1mであった。過去を念頭に置けば、原発ともあるうものは、当然、過去最大の津波より更に大きい事態を考えておくべきだった。トイレのない新築家屋などありえない。原発はその廃棄物の処理方法さえ定まっていない。完璧な対応策のない危険物ほど怖い物はない。

⑤科学の進歩に歯止めを！

科学の進歩こそ、人類に福音を齎す最大の原動力。私は単純にそう考えてきた。しかしそれは本筋か？ 最近そう疑問を持つようになった。ダイナマイトは建設工事などに多大の貢献。しかしそれが銃器の火薬として活用されれば、凶器となる。人類史においてノーベルは犯罪人ともなりうる。アインシュタインは軍から強要され「核兵器」の研究をし、遂には原爆に繋がった。神の領域に手を染めることは、一歩間違えれば人類滅亡に繋がる。

更に人工頭脳(AI)が、碁や将棋で人間を負かす分には、ご愛敬だけど、兵器に組み込まれ、機械が勝手に判断し、前線で活躍したら、どうなる？ 恐るべきモンスター凶器となりうる。

愚人の杞憂と笑うなかれ！近未来にありうる話だ。多くの文明の利器による公害等事故原因は、結局それを使う社会が未熟であったという事。奥の奥を読みきれない未熟さの典型例。

文明進化はそんなに急がなくてよい。誰かに先を越され特許を取って先に儲けられる…との焦りから未完成でも世に出す。文明進化はゆっくりでよい。充分吟味した後で世に出せばよい。

⑥国境線

鳥インフルエンザの防疫を担当した時、シベリアからウイルスを持って飛来した渡り鳥が、人間の作った「国境線」などというもののナンセンスを、せせら笑っているように思えた。なにが国境線ですか？病原体や黄砂・煤煙・植物の種子・動物などにとって、人間が国境線に拘り、線を引いたり、壁を造ったりするナンセンスは、ばかばかしくて笑止千万。一丁からかってやれ！ぐらいに思っているのかもしれない。人間の狭い縄張り根性。地球上全ての現生人類

は、今から7万年前アラビア半島で、わずか数百人の黒人を元祖としてスタート。同族なのに、皮膚の色や神が違うとか、呆れ返って嗤う気にもならない。折角大脳を膨らましたのなら、国境線など廃し、世界は一家。全世界の全人類は一緒に運命共同体。狂った歴史を正常に戻せ！

多くの事例をあげ、吼えまくったが、ではその「狂い」を修正する方法はあるのか？ と問われれば、私の答はただ一つ。全世界の誰もが、今、自分のやっている事、或いは、やろうとしている事は、神に向かって決して後ろめたくないのか…？ と質す事。一点の曇りでもあれば、その行為を再検討するか、中止する事。

八十路を過ぎて、いささか吼えすぎと疎まれるかもしれないが、狂いっばなしのこの世相に、とても黙ってばかりはいられない。老犬は脇目もふ

らず、なおも遠吠えを続けるつもり。

* 以上は18年の7月ごろに書いたものであるが、書きすぎてお蔵入りになったもの。今年の夏は体力がガクンと落ちて、書けなくなったので、ストックを活用する。従ってデータに古いものがあるがお許しください。

地域に眠る埋もれた歴史(52)

木村 進

【石岡市内の社寺紹介】

木比堤(きびさげ) 稲荷

泉町の常磐線の跨線橋を越えて、旧水戸街道を一里塚の方に進むと、手前右側に「是れよりきびさげいなり道」という大きな石柱が立っている。そこから昔参道であったと思われる道が続く。

まわりは普通の住宅で、ここから稲荷神社までは細い道を入れて、市役所前へ続く道を横切り、5分程歩くと、昔アルコール工場のあったという現在のカスミなどの入ったショッピングモールの裏手にこんもりとした木々の茂みがあり、ここに「木比堤(きびさげ) 稲荷」がある。昔はこのショッピングモールの敷地も全てこの稲荷神社の領域だったといわれている。通称「きびさげいなりさん」として親しまれてきたという。創建については不詳だが、とても重要な神社です

この神社は常陸大掾(だいじょう)氏の領主にとつて、鬼門(北東)の守り神として大変重要な役割を担っていたといわれています。祭神は宇迦魂命という五穀豊穡の神です。一の鳥居の先に木の鳥居がたくさん並んでいます。この稲荷は、大正時代に靈験あらたかで有名になり、東京の講中が参拝して境内は大変なにぎわいだったといえます。(いしおか 100 物語)

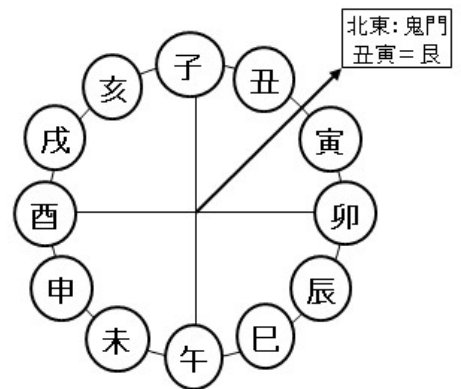


地元から見ると、よその講中の信仰を集めてしまったとも言えます。鳥居も東京の方のものが数多くありました。そしてこの講中の人たちで代々鳥居を寄進して守られてきたのだと思われます。この鳥居は全て白木で、赤い鳥居などはありません。このため朽ちるのも早いのもかもしれません。恐らく何年かに1度鳥居を新しいものに交換して続いてきていると思われます。

境内には稲荷神社特有の狐の像がたくさんあります。拝殿は昭和59年に火災で焼失し、その後再建したものだといわれています。この府中の街の鬼門の守り神を大切にしている歴史も検証していかなければいけないと思われれます。例祭は2月初午日に行なわれています。「木比提狐の恩返し」という昔話が残されています。

《木比提・きびさげことばあそび》

さて、神社の名前「木比提稲荷」の由来はどこから来たのでしょうか。



「木比提」きびさげ、きびさき、きびさけ いろいろと連想して言葉遊びをしました。この「きびさげ稲荷」は国府府中にとつては北東方向であり鬼が入りする鬼門の方角です。連想する時は、漢字で考えてはまず間違えるので、発音などを考えながらまずは「ひらがな」から進めてみます。鬼門は北東で「丑(うし)」と「寅(とら)」の間で、「丑寅=艮(うしとら)」です。鬼が「牛の角をもち、虎の柄の腰巻をつける」のはこのためだといえます。

では言葉の連想をスタートしましょう。

- 1) 木比↓きび↓黍↓吉備↓吉備だんご(黍団子) ↓桃太郎↓鬼退治
- 2) きび↓黄夷↓黄泉の国(よみのくに) ↓神話では地下の死者の国↓黄泉比良坂(よもつひらさか)で、葦原中国につながる。
- 3) きび↓黍↓稷↓禾+粟(しゆく) ↓穀物+鬼?
- 4) きび↓トウキビ↓サトウキビ
- 5) きび↓きびなご↓キビナゴ、きび女子...

「きび」は鹿児島方面で帯のこと？ 帯状の縞模様の小魚

6) さげ↓提↓提燈(ちようちん) ↓穂が垂れ下がるさま

このことばの連想から、まとめてみると

A) きびは弥生時代に中国から伝えられたという五穀の一つ「きび・黍」と見るのがもつとも考えられそうだ。

B) 1m以上にも成長する黍(きび)に実がつき秋になると黄色の実がたくさんついた穂が垂れ下がり、その姿は

きびさげ↓ 黍下げ↓黍提げ↓木比提

C) 桃太郎の鬼退治の家来は申(猿犬)・キジ

(酉)・戌(犬)で、北東の反対側の干支だ。

D) 桃太郎は川を流れてきた桃から生まれる。

(桃はイザナミノミコトが黄泉の国から逃げ帰る時桃の実に救われる) 鬼が島に行つて、鬼を一方的に懲らしめて、財宝を奪い取つて、お爺さんお婆さんにやつてしまふ。鬼が悪いことをしたとはなっていない。子供向け話として付け加えられた？

これは、大和朝廷がこの地に豊かに暮らしていた蝦夷人の土地を侵略し、金銀や鉄などの資源を奪い朝廷に献上するのと同じ構図である。常陸風土記に書かれた「土蜘蛛」のような原住民が鬼と考えると、桃太郎は全く違った物語となる。

E) こんなことを考えてきたら、芥川龍之介の書いた「桃太郎」が出てきた。ほかに尾崎紅葉の「鬼桃太郎」などもあった。

こんな「ことばあそび」もたまには楽しいものです。

我が労音史(9)

木下明男

20代に参加した労音運動は、1970年からは労音の中心活動家として参加しています。そして、労音改革の責任者の一翼を担う様になり、実践の中から学んだ内容を記述していきます。

1978年の社会情勢と音楽状況

嘗ての時代に、社会経済体制の指導原理(アダム・スミスやマルクス)の人々に確信を与える哲学で、人々の判断の支えになっていた。そういう哲学の確信が持てなくなったこの時代に「不確実性の時代」を著したガルブレイスが50万部を超える人に読まれた時代です。西ドイツでは反テロリズム法案が可決し、ソ連では反体制派に対する弾圧が相次ぎ、ロストロポフ・ヴィツチ・ヴィシネフスカヤ夫妻の市民権剥奪、反体制組織「ヘルシンキグループ」のオルロフ博士に自由剥奪7年・流刑5年の判決、キンズブルグに自由剥奪8年、シチャランスキーに自由剥奪13年が宣告されるなどの人権侵害が続き、ソ連の国連事務次長が米国亡命などの事件があった。スペイン共産党大会ではレーニン主義の放棄を決め、中国・ベトナムの国境紛争が頻発し、ベトナムのカンボジア侵攻で関係が悪化。米・ソはSALT2調印で首脳会議に合意などの関係改善が見られた。

革新京都府政が敗北し、28年続いた「憲法を暮らしの中に生かす革新府政」が後退し大きな影響を与えた。一方福田内閣に支持率も28%に下落し、総選挙で敗北して大平内閣が誕生。この年、日中平和条約が締結される。「元号法制化問題」「有事立法問題」で与野党が対立、サラ金地獄が広がり、永大産業が1800億円の負債で倒産、政府は構

造不況対策を提示。成田空港は反対派の管制塔破壊で開港が大幅遅延。

テレビでの音声多重放送が始まり「なんちゃっておじさん」が話題になる。こんにやく座が林光作曲「白黒の輪」を初演、小澤征爾が中国の中央楽団を指揮、日本音楽集団が世界一周公演を挙行、中央・地方の15交響楽団代表が初会合、音楽議員連盟が初の総会を開催、第1回東京国際ピアノコンクールが音楽界の総反対を無視して強行、音楽家・作詞家等の16団体がNHKへ待遇改善を申し入れ。サンシャイン劇場、ミュージカル専門劇場「博品館」が開設、第2国立劇場が83年の完成を目指し動き出す。

パリで武満徹プロデュースの日本音楽祭が開催、鳥居音楽賞が10周年を機にサントリー音楽賞に改称、この年ハチャトリアン(作曲家)野村万蔵(狂言)古賀政男(作曲)ダミア(シャンソン歌手)が逝去。

1978年の労音の動き

創立25周年を迎え、ベトナム国立歌舞団の招聘公演と記念作品カンタータ「脱出」(木島始詩、林光曲)初演の成功で、活気に満ちた運動が展開した年だった第26回東京労音総会(800名の代議員)では、「労音運動の歩み」と称する運動小史を決定する。創立当初は「東京の音楽人口は2万人しかない・・・」と音楽界から言われていたが、25年に渡り東京労音が例会で組織した会員数は、延べ100万人にも達し、首都の音楽文化の繁栄と普及に多大な貢献をしたことが実証された。教訓として5点があげられた

1) 勤労者の音楽要求に根拠を置いて「良い音楽を多くの人に」の目標で活動してきた。

2) 自主的民主的サークル活動を通して、職場の民主的な運動と連帯し、支えられた。

3) 音楽要求を基礎に、日本の音楽・文化の創造発展を目指した。

4) 戦前からの進歩的民主的な音楽運動の遺産を受け継ぎ、音楽家・知識人の協力が得られた。

5) 労組・友好団体・民主的な勢力から協力や援助が得られた。

3)の「国民音楽の創造発展を目指した」ことは、労音運動の目的と性格に反するとして、創造活動を除外した「新基本任務」と矛盾しており、問題があったことを示した。更に総会では、4月と9月と12月を会員拡大月間として運動の柱にし、ベトナム国立歌舞団(6例会)と委嘱作品(林光)カンタータ「脱出」の合唱例会(2例会)を中心として、3ヶ年計画の基本「全ての職場・地域・学園にサークルを作り、3万名の会員、3千サークル、『月刊音楽』1500部、1000名の委員を目標とする」を確認した。この総会で創立以来守ってきた入会金(50円)を70円に値上げ(諸物価高騰に合わせた)した。この年の例会会費は1500円〜1800円、一般ロードショーの映画は1500円〜1300円だった。

全国労音共同企画のベトナム国立歌舞団は、日本ベトナム友好協会・日本電波ニュース・全国労音の3団体共同招聘により、東京労音では都内4回・三多摩2回の公演に取り組み、13359名の会員と827万円のベトナム支援金を達成し、大きな成果を収めた。これらは前年に立てた方針

1) 歌舞団の招聘と音響機材と楽器を贈るカンパ運動が結合し、各地の民主団体や労組との協力で、職場に歌舞団歓迎委員会を組織する。

2) 招聘前年にベトナム文化代表団を招き、歌舞団公演を成功させる連帯集会を組織する。

3) 事前取り組み強化の一環として、1月に全国の労音から代表団(800名近くを2便に分けて)派遣する。(東京から37名) 全国の代表団長として木下副委員長を派遣。

これら具体方針の実践から、「ベトナム国立歌舞団を成功させる横田基地巡り学習交流会」を行い、ベトナム侵略戦争が日本の基地が利用され、その役割と関係を学習し三多摩地域から

1) ベトナム人民の民族独立闘争から学ぶ
2) 民族独立闘争と社会主義建設の中で果たされた、民族音楽運動に学び、職場に根差す労音運動の全身に役立たせる

これらの方針が提起され、労音各地に大きな反響を呼び運動が飛躍的に発展した。

カンタータ「脱出」の初演は800名を超す合唱団が組織され取り組み成功の力になった。「脱出」は作品の主題に日本軍国主義の非人間的な侵略性の告発を鋭く求め、創立25周年記念の委嘱作品として、2年前から準備してきた作品です。内容を事前に理解し、普及の糧とするため「会員拡大月間決起集会」で歴史学者の高橋慎一氏を招き講演の中から、企画意図を明らかにして学習資料の作成で取り組みに役立てた。2回公演で組織された800名を超す会員から「・・・やはり労音運動は、他の音楽会では出来ない例会やることが大事、それでこそ「労音だ」と言われる・・・」このような声が多数聞かれた。そして、メディアでも朝日新聞等に高い評価で紹介もされた。この年から始まった「民族音楽シリーズ」では、インド音楽、ブルース、沖縄の知名定男、ポポラーレベネット等が取り生まれ、それぞれの民族音楽の特徴・発展

の方向を示唆して成果を生み出した。例会活動全般では、毎月17〜18種目で年間807種目(クラシック51、ポピュラー160、伝統音楽・芸能32、そのた27)を取り組んだ。

クラシックでは、園田高弘Pリサイタル(ベートーベンの三大協奏曲一挙演奏)その他のリサイタルでは、中村絃子、江戸京子、高橋悠治、小林道夫が、海外では、ゲバントハウス・パツハベルリン管弦楽団・ドレスデン管弦楽団・ウイルコムルスカ(P)・アメリカンク(Vo)・チモフェーエワ(P)・エイゼン(Vo)・ラリユー(F)・ギョットラー(Tp)等一流ソリストの企画が取り上げられたが、曲目のマンネリ化や事前の宣伝不足もあり、会員増には繋がらなかった。

ポピュラー関係では、全会員数の7割を超えているが、要求の強いニューミュージック例会は、所属事務所の主催公演で占められているため例会実現が困難となっていたが、小室等氏から「むかし吟遊詩人が、村から村、街から街へ様々な出来事を即興で歌いながら人々との交流の輪を広げて、都内23区をくまなく回り、歌の輪を広げる」という提案があり「小室等23区コンサート」が実現し各地域の活動の力となった。この年は消防法の改正でスプリンクラー設置工事が義務付けられ都内の大会場・ホールが使用できなくなり、各地の小会場例会が取り生まれ「小室等23区コンサート」は600名、高橋竹山は16回8500名、他にトップギャランや黒坂正文、大塚博堂など総計で29000名を拡大した。

能・狂言・地唄舞・落語などの伝統音楽・芸能例会では、最高の出演者による充実した企画が好評を博した。また高橋竹山・竹与の津軽三味線例会の取り組みは周辺地域まで広がり成功を収め

た。民族学団「ひきの会」では会員参加の「新曲さくら」と併せて運動の輪を広げる力になり教訓となった。

例会外の活動は「スキー友好祭」が北志賀竜王で1300名、「夏の友好祭」は富士の西湖で750名の参加で交流を深めた。 つづく



石岡市指定文化財(十四)

兼平智恵子

この会報が皆様のお手元に届けられます頃には、仁徳天皇陵、応神天皇陵、世界遺産へ…と喜びに湧いている事でしょう。

仁徳天皇陵(大仙陵古墳)を含む百舌鳥古墳群、応神天皇陵(誉田御廟山古墳)を含む古市古墳群は、合わせて四十九基で構成され、古墳時代最盛期の4世紀後半から5世紀後半、大陸と行き来する航路の発着点だった大阪湾を望む場所に築造され、航路からの眺望を意識したと見られている。

この大阪の古墳の話題にあやかっけて前方後円墳では県内で一番の大きさを誇る舟塚山古墳への見学者が増えています。国指定文化財でありながら墳丘での見学が可能ですので、多くの方に感動をお持ち帰り頂いています。

舟塚山古墳は恋瀬川河口付近の高台で、東南に霞ヶ浦の高浜入江を望み、西には筑波山を仰ぐ景

勝の地にあります。

この高台である台地状の丘陵は北西から東南へ、霞ヶ浦までゆるやかに伸び、旧石岡市街もこの台地上に広がり、台地の最先端下には高浜の町並みが形成されている。かつては台地の西、東側には谷が広がり霞ヶ浦に続き、この台地上に舟塚山古墳があり、築造当時は霞ヶ浦が相当上流まで湾入し、出入りの舟の格好の目標となり、この大前方後円墳はその壮大な姿でこの霞ヶ浦を見下ろしていたものと思われている。

石岡市には三六〇基以上の古墳が造られ、舟塚山古墳は石岡市高浜から北根本、中津川かけて存在する総数四一基からなる大古墳群のなかで最大の規模を誇り中心として舟塚山古墳群と呼ばれています。古来から地区の人々によって古墳に名称が付けられていますが、付けられていないものも多く、便宜上台地の先端から番号を付けて標記してあるそうで、舟塚山古墳は十六号墳となっています。

いよいよ本題の石岡市指定文化財の紹介に入ります。

十六号墳である舟塚山古墳の南側にある十七号墳から発見された出土品です。

舟塚山古墳群十七号墳より出土

短甲・盾・直刀

石岡市染谷一六四六

(常陸風土記の丘資料館内)

有形 (考古資料)

指定 昭五三・八・二三

昭和四十六年二月に舟塚山古墳周辺発掘調査団が結成されました。

この古墳は耕作によりかなり削られており、調査が進むにしたがい主体部の木棺と思われる施設の

中から短甲・直刀三本・盾の一部が

発見されました。調査を担当されたお一人は北風の吹く寒さを忘れて目を見張り、出土状況などから人を葬ったような痕跡が認められないと判断しました。

発見された状況の一部を記しますと

木棺……長径三・九m、短径〇・八mほどの木棺であり、掘方の中央部やや南寄りに安置され黒色土を含むローム層が堅くしまつて木棺を覆っていた。

短甲……鉄横剣板鋌留短甲が木棺内東端から前部を上にして出土。後胴の高さ三四・五cm、最大巾四七cm、裾巾約三三cm、胴部の下部がくびれている。行方市の三味塚古墳出土の短甲に類似。

盾……木棺の上に置かれた状態で出土。木棺が崩落した際、盾の半分以上が一緒に崩れ、残存していた部分は土に漆だけが付着している状態であった。漆の状態から見ると、材質の荒い織物か編物の上に黒漆を塗り、その上に朱で文様が描いてあるようである。残存部をプラスチックで固め、復原して風土記の丘の資料館に展示してある。

直刀……①木棺の北壁に刃部を北に向けて出土。全長一〇三cm大形の直刀で、刀身の一部破損。

②本直刀は①の西の北壁部にそい、刃部を南に向けて出土した全長九八cmの直刀。③本直刀は南壁に刃部を北に向けて出土し、全長一〇三cm大形直刀である。

これらは古墳時代中期の典型的な遺物として、また舟塚山古墳を考える上で貴重な古墳であると結ばれている。

大阪の仁徳天皇陵に共通する特徴をもつ舟塚山古墳(文化財とされた当時は5世紀中頃築造とされ

ていたが平成二五年リーダー・磁気探査によって五世紀前半とも言われている)、墳形が応神天皇陵に類似していると言われている舟塚山古墳群では第二の大きさの府中愛宕山古墳(築造年代は六世紀初め頃に位置づけられている)、そして大阪湾と霞ヶ浦、どちらも港湾の近くに造られている共通性。世界遺産登録への喜びが叶えられます様に祈念しています。

参考資料

舟塚山古墳群周濠調査報告書

石岡市の遺跡

○闘って闘って黄泉の国へ師ひとり

智恵子

高浜よ！ 元気をだして 伊東弓子

今年も“ダイヤモンド筑波・しみみ見る会”があるという散らしをした。

玉里しみみみの村(NPO法人)主催で五月十七日(金)十七時~十九時の間 場所は平山の高台、桃山古墳から百m位の所、悠遊農園たまりと記されている。

夕陽が筑波の両峰の真ん中に吸い込まれていく様と、夕陽の色彩が用紙全体に溢れている。第六回目をむかえた。始めの頃は親しい仲間や知り合いに配ったが、それだけでは地域の活動に繋がって行くのには程遠いと思い、平山・高崎地区に配ってみた。受け取ってくれた人の声は様々。

「昔から見てつと」

「いや、そんな時間は夕食の支度で見る間もないわ」「知らなかった」

しつこいとは思ったが、二~三年続けた。今年は

高浜に集中して配ろうと決めていた。何で高浜だったのかというのは、

四月二十二日(月)の、まちかど情報センターで行われた歴史カフェに参加して、とても感動したのだった。それは高浜の人が三~四人参加していたことだった。きっとこの人達が高浜町活性化の母体になってくれる事だろうと、期待を込めてその手伝いの一つとして、先ず高浜へ配ることに決めたのだ。

その後、中津川・根本・高浜・田中・東田中それぞれの所から筑波の山と夕陽を眺めて歩いた。場所によって角度が変わる。場所それぞれで双峰に入る夕陽は日や時間が変わることだろう。以前、御留川歩く会の下見をした時、三村・石川・井関・三ツ谷・甲架津・小津・安食・柏崎・田伏・浜・八木蒔・羽生・沖洲・小川・川中子・大井戸 それぞれの所で山と、流れと、夕陽を見て来たが、共通して印象に残ったのは、水田の緑の中に夕陽の影を浮かべる美しさだった。“田毎の月”ならではの“田毎の陽”だった。夕暮れ時の一瞬の美しさを共有する地域で、この幸せを感じることを持てないか、手を繋ぐことは出来ないだろうかと思う。

今の姿の中に長い歴史を見て、これからの歩みを考えていきたい。高浜駅は一寸この辺にはない素晴らしい駅だ。東南から北西へ二百五十度近くが目に入る。広大な霞ヶ浦が広がっていたのだ。

その奥に筑波の山が、閑居山の尾根、龍神山の尾根を従えるかのように聳えている。釣人も訪れなくなつたというが、それも魚の棲む水草がなくなつたり、水が汚れ堤防に仕切られたからだ。それでも大きな看板はとても素晴らしい。看板を邪魔をしている木の枝払いをしてほしい。駅は今の素

朴さを保ってほしい。老人利用の為にエレベーターがあるといいと願う。北の台地には古墳群が多い。とうとうバイパスで分断されたが、古墳の散策コースの案内などで紹介してはとの声もある。

つい何年か前まで恋瀬川の堤に鯉のぼりが泳ぎ、電車の中の客の心を楽しませてくれたり、地域の子供たちが喜んで集まったが、商栄会のメンバーも年がなくなつて出来なくなつたと聞く、いっそのこと恋瀬川か、山王川に鯉のぼりを泳がせてはどうだろうか。熱く語ってくれた人がいた。

高浜から玉里そして玉造へそして出島を巡っては・・・現代人のせせこましから解放されるだろう。先日野鳥の会の人たちが来るというので参加した。境堂の舟留から流れる新川沿い・恋瀬川沿いの草木一帯に野鳥が沢山いるということで大いに関心を持ってきてくれていた。が高浜の町、霞ヶ浦の事は全く言葉には出てこなかった。とても残念なのは、鳥の集まっている条件や環境、この土地の事を知ってこそその学習ではないかと思ひ、持ち合わせの知識の中から高浜の町、霞ヶ浦(特に高浜入)の事を紹介した。訪れた人に対してお接待は必要だと思っている。S氏が魚の為に水草の世話をしている事も付け加えて紹介しておいた。桜の時期には堤沿いが花見で楽しむ場所になる事も・・・町並みには寺跡・社も数多いし、お堂も、それぞれの町内がよく守っているのも心温まる思いだった。道に沿ってあらゆる商売をしている。以前には大きな商売に成功した人達が土木工事や変わりゆく交通手段に力を尽くしたと聞くが変って行く時代で苦労の上破産などの悲劇があったり、今尚地主名が幅を利かせているのも障害の一つと聞く。古い建物が失われていくのも残念。シャッターや扉に絵を描いてみるのも目を引くだ

ろう。空き屋や店舗の前や周りは、草をとり、塵の始末しておけば綺麗だ。綺麗にしていく事が先ず、活性化の始めだ。さあ！このことを誰がはじめるかが課題。水運で物の取引が行われ、多勢いの人達の出入りがあり、地域の人達との交流があったろう。そして豊かな文化が育っていったから、形として残っているのだろうか。矢鱈と壊さないで欲しい。今高浜で生活している人達は、素晴らしい先祖を持つ、子孫の一人一人のだから。府中に国府や国分寺・尼寺等出来たのも高浜の地があったからこそだと思う。大正期に産れたHさんが高等科の時、鹿島詣で嵐になり、帰ってこられず、何日か鹿島の町に逗留したと聞いた。昔、国府の役人達が高浜の小津から井関の月の台へそこから奈良へ向かったり出向いてきたと聞いた。重要な官道だったのだろう。古代絵巻が目には浮かぶようだ。

国分寺の鐘を盗んだ奴も、恋瀬川から高浜を通り、三ツ又沖で沈むまでどんな思いで舟を漕いで行ったことか、石岡のAさんは力を惜しまない。「何とか、あの鐘を見つけない」府中古墳が壊され始めた寸前で止めたり、山王川を流れたアルコール工場の汚れは、日本最初の公害問題となったが、田中地区を苦しめ、霞ヶ浦を汚していった。Aさんは言う。「山王川の出口に、日本第一号の公害の碑を建てたい。」と・・・。

バイパスの時も、古墳の保存・調査を討ててきた。高浜の中にも知っている人が沢山いる。Sさん、Sさん、Hさん、Sさん、Kさん、小林恒岳先生の奥さん、若いOさん、Hさん、Kさん、Kさん、お店の人でもO店、K店、Iさん、T店、T店、まだまだ沢山あることだろう。いることだろう。公民館はデザインもいいし、感じがいい。手軽に

利用するといいい。城南中学校はどうなったろう。小高い場所があり、古墳の如く高浜のシンボルだと思う。歴史・文化・美術・集会場・研修室に是非使って欲しいという地元の話しを耳にした。役所がやってくれる事を待っていないで、地元の人が願っていることを声にしていかないと、出遅れるから。

何で高浜が気になったか、それは幼い時病院は川島医院へ来た。同級生もいた。小学校の石田先生の家へも友達とよく行った。子供の店で買物をした所は“めくらさまげ”という店だ。高校の時通った町、汽車から電車に変わった頃、子供を背負って通った町、沢山の人と言葉を交わし、暖かい思いを頂いた。その中に忘れ難いものが、私に高浜への思いを募らせるのかと思う。それと古代から現代迄の長い深い歴史を知ったことで、高浜よこれからも発展してほしいと願うからだ。

これから一町三市で利用するごみ処理のごみの通路に、高浜ハイウェイが、町中の通りがなりかねません。ごみの灰が一番流れてくるのも高浜町の上と高崎たんぼだそうです。確りとチェックして行ってほしいです。

さあ！自転車（いづみ荘にも貸し出しあり）で、走ってみましょう。三村く関川く三ツ谷く甲架津く小津く柏崎く田伏く玉造く浜く八木蒔く羽生く沖洲く川中子く大井戸く平山く高崎く高浜へとあちこち見てきましょう。共通のものを持ちながら、それぞれの地区で独自のものを育てていきたいから。私も高崎で頑張ろう。

石垣島の伝統行事

小林幸枝

石垣島の伝統行事としてよく知られているのが、

旧盆時期に行われる「アンガマ」です。主役は「我々の遠い／＼大先輩」、あの世からやってきたおじいさん（ウシユマイ）とおばあさん（ソミ）、木で作られた細長いお面を被った二人が手ぬぐいとサングラスで顔を隠し、お供を引き連れ、仏壇のある家を回ります。一番の見所は、あの世の近況報告です。

そのほかには花子（ファーマー）と呼ばれる「ウシユマイ」と「ソミ」の子と孫にあたる「ソーロン」のご一行が、三晩の間、所望された家々を巡り演技を披露します。招かれた家では、仏前で色々な踊りを演じ祖先の霊を慰めるのですが、三線を弾き、太鼓を打ち鳴らし、笛を吹き、念仏を唄えながら、唄い、踊っていました。客から質問にウシユマイとソミが裏声で面白おかしく回答してくれました。ユーモア溢れる掛け合いに、笑い声と喝采がこだまします。質問する側は、お供と同じくタオルをサングラスで顔を隠さねばなりません。そうしないと、あの世へ連れて行かれてしまうそうです。

旧盆とは、旧暦の七月十三日く十七日のこと。旧盆初日には地方紙にアンガマの開始時間などが発表されるので、チャンスがあったら、是非見物をしてみてください。くれぐれも、素顔のまま質問しないよう注意ですよ。



〈兄のいふ〉

父は私たち兄弟に時々課題を与えた。小学生だった兄には株価のグラフを書かせ筆筒のわきに張らせた。これは1年ほど続いた。

中学生の私には、英単語で母音が3つ連続するものを5個あげよといった。私はQUENの一っだけしか上げられなかった。

これは息子たちの学力を試したのだろう。また、夏休みの宿題ができていない私に「解字自漢和辞典」の語源を1冊の大学ノートに書きとらせた。10日余りかけてギリギリで完成させた。担任の国語教師は「私も同じ研究をした」と言っていた。おかげで、その秋の通信簿は5だった。

市役所を失職した父は、小学生相手の塾を開いた。5・6年生が私を入れて3人の小さなものだった。これは中学1年まで続いた。

やがて兄たち高校生を教えるようになり、中学生のグループはなくなった。そのうち中学の教師に頼まれて、その娘たちの中学生を教えた。大学生になった兄は帰省したとき父に代わってその子を教え、後で「なかなか優秀だ」と言っていた。小さな塾は全部で7年ほど続いたろう。英語の教材にレコードの英会話教材を使って発音の助けにした。イギリス・アメリカ・フランスの国歌も聞かせた。西部劇のテーマ曲のレコードもあった。またテープレコーダーも使った。当時の田舎の塾としては進んだものだったろう。また過去の体験からヒアリングや発音の重要さに気づいてもいたのだろう。

兄には特に期待していたらしくて、力を入れ過ぎた余りにその要求に応えられなかった兄は「俺

ばかり厳しく言われる」と言ってプチ家出をした。満座の生徒の中で恥をかかされたと思いい、兄にしては珍しく反抗した。半日余りで帰宅して「豚と軍艦」という映画を見てきたといった。

父に「面白かったのか」と問われて慚然として「つまらなかった」と言った。

その一方で父は母に向かって、「康夫の英語力はもう自分を超えた」と褒めていた。

なぜか妹のことは全く教えていない。

朝日生命の外交員も少しだけやった。一家の家系は主に母の洋裁によって支えられていた。

このころが、戦後すぐの時代を除けば菊地家のどん底生活の時代であった。時は1960年代、やがて来る高度経済成長の波は、この地方の小都市都市・石岡にも波及してきていて工業団地が作られたりしていた。

道路も次々に舗装されていき、車の交通量も増えていき、家用車の普及もモータリゼーションの幕開けとなった。友人たちの家族の生活も向上していたのだが、うちは取り残されていたようだ。

わたしは、伯母たちから従姉妹のおさがりを貰って着ていた。これは少年にとつてたまらなく嫌なことだった。ある時のこと、中学生だった兄は私に、父が酒ばかり飲んでから自分は大学にはいけないと言った。泥酔して道に寝転んでいる父を、近所の人の通報で家に担ぎ込んだりしたこともあったので妙に納得した。

この少年期の貧しさに対する思いが、のちに兄が大学入学後に左翼思想に傾倒していく大きな要因となったのだろう。高校三年の時に同級生らと集まり同人誌「青蛙」を作ったりした。大学入試

の詰め込み教育に対する憤懣がそこにかたられていた。もっぱら、私の家がたまり場になり同人誌も二号まで出した。やがて学校側の知るところとなり、受験に悪影響を及ぼすとして解散を命じられた。

時は60年と70年の安保騒動のはざまの時代である。入学してすぐにその洗礼を受けて寮委員長として自治会活動に専念する。共産党系の大学連合自治会に加わったが、多くの学生らとともにすぐに除名される。

共産党中央の指導方針に従わなかったためである。党は先鋭化する学生に対し、トロツキストと呼び、除名などの対抗措置を取り、学生らを組織から締め出した。多くの知識人・文化人も除名されあるいは脱退した。

共産党も、戦後すぐは地下組織が山村工作隊として全国の農村に散らばり武装蜂起を企図した。作家の小松左京もこのひとりであった。

やがて、党中央は路線転換し武装蜂起路線を捨てる。

また各労働組合のストライキに関わる。東映の労働争議には、ついに米軍の戦車が出動する騒ぎになった。三大国鉄事件と言われる〈松川事件〉〈三鷹事件〉などが起きるのもこのころである。

国鉄総裁下山修が謎の轢断支隊で発見されたのもこのころ。帝銀事件という不可解な犯罪が発生したのもこのころである。いずれの事件も、その後には米軍の影が見え隠れする。

やがて全共闘運動が台頭し、全国の大学自治会の主流となっていく。いわゆる「三派全学連」である。

共産主義青年同盟・ブンド(共産同)・

革命的共産主義者同盟(革共同)〈中革派、革マル派〉

・第4インター(四トロ)

これを称して「三派全学連」と言う。

これらはさらに分裂し、一六流と言われる小組織となる。路線対立をめぐり互いに激しい「ウチゲバ」を繰り返す。

社会党系の青年組織「社会主義青年同盟」・「社青同」からも開放派「青解」が分裂する。

このほかにアナキストグループも黒ヘル集団として登場する。

共産同はやがて、路線対立から、さらぎ徳治を議長とする主流派から塩見孝也を議長とする関西派が分裂する。これがのちの赤軍派となる。

また、「荒派」・「戦旗派」・「ML派」等に四分五裂する。

共産党神奈川県委員会を名乗る「京浜安保共闘」も生まれ、のちに壊滅状態となった赤軍派と合流し「連合赤軍」を結成、追い詰められて、大ニュースとなった「あさま山荘事件」を起こす。妙義山をはじめとして山岳アジトを転々とする中で、仲間一〇数人をリンチで殺すという陰惨な事件を起こした。この時使われた「総括」という言葉が広くいきわたった。

このほかにウチゲバを繰り返す三派を嫌った「ノンセクトラジカル」と言われるグループが登場する。この部分は、やがてのちの市民運動へと発展してゆく。

この動きは高校生のレベルまで波及する。デモなどに参加し逮捕者も出す。

のちにこれらを書く書籍を育冊か読んだが、いずれも言葉足らずであり、到底内部に詳しいものを書いたとは思えないのである。

【風の談話室】

《読者投稿》

やまじ書房(29)

やまじ

「ニンニクの葉が枯れてきたら収穫だよ……」と、聞いたので早速掘ってみた。元々大きい種類だったので早掘り？見事に大きい。梅雨の嫌な季節に此れを食べて、暑くなるであろう夏を乗り越えよう……！

●クラフトいろいろ……

・カフェオリーブで恒例のエコクラフト会。みんなでランチの後に籠づくり、先週の続きで夏用の籠です。同じデザインでも夫々の個性が滲み出る。大きな窓の外には、じゅんべりの大きな木があり、丁度完熟状態の果実に。たくさん野鳥が行き交い賑やかです。籠の続きはまた来週……！

・土曜日・日曜日に、奥会津三島町にて開催する「工人まつり」。全国からモノづくりの人たちが「工人以上集まるそうです。自然素材を用いての職人さんたち、私たちの師匠はメイン会場からは外れてしまいましたが出店します。自分が作ったものをどんなお客さんが買ってくれるのか、作品を通じての会話が楽しいと言っていた。作品は竹細工、くるみの皮のバック、山葡萄の皮のバックなど、いずれも山から取ってきた材料ばかり……

・懇切丁寧に教わっても理解できない。ここをあけて？こうして？と、頭の中がぐるぐる回る。

このまま続けても出来るわけがない。家でも一度やり直してみるからと、早めに終わりにした。その後師匠から山椒の実、今が取り頃だという話を聞き、俄然元気が出る。早速師匠の山で山椒の

実採取。いい香りがして空腹が刺激された。実は醤油漬けにでもして、葉は佃煮かな？などと話しをしながら、せつせと積んだ。午後からは八郷自給の会発足の説明会が……師匠も参加するとの事なので次回内容を聞くのが楽しみです。

●我が家の庭

・オカトラノオ、裏庭に群生して咲いています。小さな白い花が下の方から徐々に咲き花の時期がとも長い。地味な花ですがとてもかわいい……

・イチゴ摘みをしていると、藪蚊に足か所さされ赤く腫れた。唇もぼつんと腫れていた、てっきり虫刺されと思っていたが、時間がたつにつれピリピリした痛さになった。心配になり午後から皮膚科に行った。ちょうど土砂降りの雨にぶつかってしまっただが、20人もの患者さんが待っていた。その患者さんの話に耳を傾けると、あちこちで虫に刺された話をしていった。でも私の唇のピリピリは口唇ヘルペスとの事だった。今日診察に行つてよかつたと安堵、これからの季節は虫にも気を付けなければ……

・友人が自宅でお茶や紅茶づくりを始めている。私も刺激をうけて、お茶を作ってみよう……

・幸い、お茶の木は何本も植えてある。久しぶりに作ったお茶を飲んでみたら、自己満足で美味しかった。昔からこの辺りでは茶の木は必需品、茶摘みの季節は一家総出で1年分のお茶を作っていた、もう40年前の話だが……。お茶の葉は蒸してフライパンの中で揉みながら作る、部屋中に良い香りがした。ストレッチ仲間からはカモミール茶を頂いた。こちらも作るのに手間がかかりそうだ。摘んで刻んで乾燥させそれをみんなの分作ってくれるのだから……有難い事です。

●夫のいない間に・・・

・夫はいそいそとスペインの方へ出かけ、その間
にのんびりと思つたが、そういうわけにはいかな
い。やること満載です。そうそう、私からのスペ
インへのお土産はおなじみのクラフトで作つた蓑
のおつまみ入れです。私の代わりに海の向こうに
飛んで行きます・・・

・姉が同窓会で帰郷、今晚はお泊りです。フラワ
ーパークのバラが満開との情報で行ってきました。
美しいバラと香りにつつまれ幸せ気分・・・

・我が家に泊まつた後、今度は姉の家に来ていま
す。花菖蒲を楽しみにしていたのですが、早かつ
たようです。菖蒲の鉢が150鉢ほどあり咲くと庭
先に並べ、多くの人にたのしんでもらっているよ
うです。

・姪家族が三浦半島の海が見える温泉に連れて行
つてくれました。穏やかな海を眺めながらの温泉、
久々の至福の時でした

・翌日、もう一人の姪も加わり、三浦半島のドラ
イブ。途中、観音崎ホテルで食事、バウォースポッ
トで有名な神社などを巡り、ミニリゾート気分を
味わいました。

・久々に遊びまくっていたが今日は帰らねば・・・
姉の家の花菖蒲やつと一株咲いてくれた。150鉢
咲くと見事だよ、と言っていたが残念な事でした。
家に帰り早速コロの迎えに、ちょうどジャンプー
が終わつた所でふわふわいい匂いがしていました。
耳そうじなどしてもらつていて、すっかりリラッ
クスしていました・・・姉の家の庭は花盛りでし
た。花菖蒲が咲くと友人が大勢やってくるそうで
す。

・今日も朝から小雨、夫が旅行中に溜めた大量の

洗濯物、お天気を待つていられず洗濯をしてしま
つた。こんな天気なので乾くはずもなくいやな匂
いが。その上口唇のヘルペスが鬱陶しい。でも早
く治療したのがよかつたのか水疱はほとんど消え
た。こんなちよつとした体の変化でも気分が悪い
のだから、今闘病中の白井先生のことを思うと本
当に切ない。体力をつけて早く元気になってくれ
ることを願うばかりです。

●梅雨入りの我が家

・孟宗竹がすごい。つい、この間までタケノコと
して食べていたのに、掘られなかつたものは、ど
んどん伸びる。寝る前にはコロの排尿で竹藪のま
えの道を歩くのだが、水を吸うような音や水滴の
おちるような音がする。田んぼは車のライトが光
つてきれいだしカエルの合唱もまだ続いている。
とんでもない所に一本だけ空高く伸びている竹を
発見。明日にでも切らないと・・・

・梅雨入りで、庭木も生き生きしている。草木た
ちもニョキニョキと伸びるのだろうなあ？この時
期の好物、ニンニクを見に行くと、やはり芽がニ
ョキニョキ伸びていた。ちよつと食べごろ、ポキ
ポキと折って豚肉や絹サヤと中華風に炒め玉子と
絡めた。チョツとニンニクの香りが出て美味しい
こと。あとは葉が枯れたら収穫が楽しみです・・・

・この木何だろう、背丈ほどに伸び葉っぱがどん
どん出てきた。もう一本は草むらの中で勢いよく、
葉が茂っている。こちらは膝までの高さ。どちら
も生ごみを埋めたところ。若しかしたらアボカド
かも知れない・・・？

・クロバナロウバイ・・・チョコレト色のかわい
い花、かすかに甘い匂いがする。葉も光沢があり
グリーンでとてもきれい。もうずいぶん長いこと

咲いています。この木はオリーブさんの庭から分
けていただいたもので、根元からはたくさん枝
が増えてきました・・・

●いろいろと・・・

・日本舞踊のおさらい会に行った。「ひつじの郷」
のママ発表会がひまわり館で盛大に行われた。山
酔会のメンバーも応援に。義太夫の曲にあわせ見
事に舞いました。舞台の背景は旦那様の協力だつ
たとか・・・？

・日中の陽射しのキツカッタこと。車を1時間ほ
ど走らせて帰ると顔がひりひりした。やはり日焼
け止めクリームを塗らなくては！・・・アジサイ
も咲き始めたが、アジサイの花にはやはり雨が似
合うと思う。オリーブさんから分けてもらったア
ナベルも笠間の今は亡きNさんから頂いたカシ
ワバアジサイも咲き始めた・・・

・カフェオリーブさんで籠編みを楽しんだ後、家
路につくと、足尾山、加波山の間が沈む所だ
つた。

・夕べはコロ様に振り回された。散歩時排便のし
ぐさはするが、なかなか出ない。ぐるぐると、家
の周りを歩いてはゲージへと、その繰り返し。肛
門から顔を出してはいるが踏ん張りがきかないの
で、すぐ引つ込み排便できずに大騒ぎ。リンゴの
スライスを与え、牛乳を飲ませた。暫くしてから、
コロンとしたものが出たがそれからが大変だった。
何度もの下痢。まだ仕事をしていたお隣さんが、
そりやあ誰だつてつらいよなあがんばれコロちゃ
んと励ましてくれた。それでも12時頃には治まっ
たようで、翌日の昼間はよく寝ていた。さてさて
今夜は起こされないことを願います。

・朝から悪天候、時折強風、土砂降り、そんな中

夫は商工会議所のゴルフコンペに、寒い寒いと言
って帰ってきた。濡れたバックの中から景品が、
ニアピン賞として弓豚が、さつそく夕のおかず
に頂いた・・・



《風の吹き》

水戸藩と後楽園

打田昇三

茨城県民は水戸の偕楽園のほうを知ってい
ると思うが、東京・文京区小石川の後楽園一帯も
かつて一万坪近い水戸藩の駒込邸が在った場所
であり其の付属庭園が後楽園なのである。

水戸徳川家の始祖は黄門様こと光圀公の父親
である頼房（徳川家康の十一男）だが、その母親
は安房の豪族で滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」に
登場する里見氏と、北条氏や上杉氏の血を引く女
性で「お万の方」と言った。家康には十五人の側
室が居たらしいが此の女性は男児二人を生み、そ
れが紀州家と水戸家の始祖になったのである。因
みに尾張家の祖となる義直の母親は石清水八幡宮
に奉仕する修験者の娘であつたらしい。

水戸藩の江戸屋敷は二代将軍・秀忠の時代まで
江戸城内に置かれていたらしいが、元和八年（一
六二二）に文京区駒込や小石川一帯に屋敷が与え
られ付属庭園も其の時に出来たのであろう。後に
光圀公が、日本に亡命した中国の儒者・朱舜水の
意見を聞いて整備し「後楽園」と名付けたとか。

所謂、徳川御三家の地位が確定したのは三代将

軍・家光の時代であるが、其れ以前から水戸藩邸
の警護は厳格厳重で其の門前を通る物売りなどは
声を響めて通過したと言われる。それは茨城県人
が真面目過ぎるからで、將軍から拝領した屋敷も
必要以上に大切にしたのであろう。

御三家のうち尾張と紀伊の藩主は大納言だが、
水戸は中納言に留まる。その代り参勤交代はせず
藩主は江戸詰めである。是は幕府の非常時対策と
御三家均衡策と言われているが、そればかりでは
無い。此の制度は三代将軍・家光の時代に決めら
れたのだが「大・中の差」は他に理由があつた：

家康が駿府城に隠居するとき、多くの女性が
居た中で同行を許されたのは「英勝院・お勝の方」
だけである。江戸城を築いた太田道灌の子孫とも
水戸城に居た江戸但馬守の娘とも言われているが
定かでは無い。関が原合戦に騎馬で出陣し家康に
従っていたという文武両道に優れた女性らしい。

江戸城が完成した翌年の慶長十二年に、浜松城
でお勝の方は女兒を生んだ。家康には最晩年の子
になる。その頃、伊達政宗の動きが気になってい
た家康は是を封じる手段として、生まれた女兒を
伊達家に嫁がせる約束をしていた。ところが世の
中は都合良くいかないもので此の女兒が早逝して
しまう。当然のこと、お勝の方は落胆し、さすが
の家康も慰める言葉を失う。困つた家康は当時、
浜松の保育園に通つていた末子の頼房を「お勝の
方の養子」にした。此の措置により徳川家康の子
である頼房は等級が一つ、下がつたから水戸家は
大納言になれなかつたのだと思う。

是で終わると水戸家は損をするだけだが徳川幕
府も三代将軍の座を巡る内紛があり、家光より弟
の忠長のほうが利発だったので、二代将軍・秀忠
は忠長を後継者にする心算であつた。それを心配

した春日の局が密かに浜松城へ行き、お勝の方を
介して家康に直訴し、家康が江戸城へ行つて「家
光が世子」であることを明言したのである。

春日の局は、此の事を家光によく言い聞かせて
いたから「参勤交代の制度」を決める際に、お勝
の方の子に当る頼房が藩主である水戸藩を江戸詰
めにしたのであろう…と私は思っている。

家康の死後、お勝の方は髪をおろし、英勝院と
称して水戸藩の庇護を受けていたらしい。鎌倉に
在る「英勝寺」は、此の人の建立と言われる。

こびとの島

菅原茂美

信じられないかもしれないが、この地球上に、
成人の身長が1.1メートルの小人（こびと）
だけが住んでいた島がある。優れた石器を持ち、
それなりに知的な生活もしていた。以前にも書い
た事があるが、それはインドネシアのバリ島のす
ぐ東「フローレス」島である。おとぎ話ではない。

今から5万年前（1万2000年前とする他説と
現在論争中）まで確実に生息していた。大脳容積
は、ある学派は380ml、有る学派は417mlと
して譲らない。小人化の現象は何らかの病気との
説もあるが、時代と場所を変えても体格は同じ比
率で小型化しているの、更に病理学的現象は見
つからないので、病気説はあてはまらないとされ
る。いずれにしてもまだ定説には至ってはいない。
人種としては「ホモ・フローレンシエンシス」。起
源の推測は、ジャワ原人。

ジャワ原人とはアフリカのホモ・エレクトゥスか
ら枝分かれした分派。1891年オランダ領だつ
たジャワ島トリニールで発見された化石人類であ
る。170〜180万年前までジャワ島に住んで

いた。大脳容積900ml。

ジャワ原人や北京原人(78万年前)は、ホモサピエンスの祖先ではない。ホモサピエンスは今からほぼ20万年前、ホモ・エレクトスから分派した事実は動かしようはない。

さてそのジャワ原人がフロレス島へ渡ってきて、いつの間にか原人は小型化してしまった。

一般に小さな島で、強力な肉食獣がいなければ、ウサギより大きな動物は小型化し、兎より小さな動物は大型化する。これを「島嶼化(とうしょか)現象」という。実際フロレス島の鼠は、大型のドブネズミの2倍以上はあるし、アジア象は小型化し、小さな牛ぐらいまで小型化した。この原理によりジャワ原人も小型化してフロレスア原人になったと考えられる。いずれにしろ、現在地球上の人類は我々ホモ・サピエンス一種のみである。例え12000年前まで生きていたにしろホモフロレスア人は原人である。眼上突起が甚だしく、おでこがなく斜め後ろに後退し、頤(おとがい)もなく原人の特性を備えている。

その生き残った唯一の我々ホモサピエンスは、ケンカばかりやっついては、地球上から人類が消えてしまう可能性は大である。今世界は明日にも第3次世界大戦を起こしそうな勢いである。それを覆したければ、まず核兵器をこの地球上からなくせ。それが限り、人類滅亡の可能性は消えない。次世代の地球上の主はゴリラか、チンパンジーにバトンタッチするほかなくなる。人類は何のために脳ミソを膨らましたかをしみじみ考え直したらよい。

ホモサピエンスは、賢い人という意味であり、ホモエレクトスの唯一の子孫として、こうして生き残っているが、他にも別種があればよかった。

例えばアメリカ南北両大陸のインディアン・インディオと、そしてオーストラリアのアボリジニはそれぞれ別種の人類という事であれば、3種の人類で交互に世界統治の実権を握る。政権交代すれば絶対に前政権は口出しできない。核兵器などは完ぺきに処分し軍隊は持たない。政権は30年交代とかなんとか定め、戦争の恐怖は完ぺきに払拭する。人類は初めて戦争の脅威を捨てた理想の国際統治が行われる。そもそも危険な兵器を売って飯食つてる国が存在する事自体、世界平和など、本気でぶち上げる気持ちなど、さらさらないのである。本気の戦争勃発も困るが、穏やかな平和の到来も真に困ったものなのである。程よく仲が悪く、古くなった中古の兵器を買ってくれる後進国こそ、ありがたい存在なのである。武器生産国は常に最新型の高性能武器は絶対に売りには出さない。オバマ前米大統領は核兵器の廃絶を訴えノーベル賞をもらった。世界はその影響もあり核兵器減少に向いているが、中国だけは増産に励んでいる。愚かな国、世界2位の経済大国かどうか知らないが、向いている方向が違う。愚かにも何年後には米国を追い越そうと思っているらしい。そして最も軽蔑されるべきは盗めるものなら何でも盗め!! この根性が軽蔑の対象。世界の知的財産は皆中国に盗まれる。アメリカのありとあらゆる機械工業。日本の和牛やブドウのシャインマスカットにコメ。汗水流し、何十年もかけた開発費は一朝にして盗まれる。習近平はよくぞ国際会議に平気な顔して出席できるなど、呆れるばかり。

小人の国の話が、巨大な悪党の国に及んでは私も認知症が進んだか? とにかく小人の国が消え失せたのは残念であった。だが今更どうにもならない話であるから、これからは世界皆が、心から

仲良く生きていけるよう、強く心掛けたいものである。

爺の責任

菅原茂美

内孫3人娘が、いずれも大学生。ただ事ではない。長姉は23歳。自治医大5年生。医大は6年生の規定通り。一浪して入ったがあと2年で社会人である。茨城県のお世話により、ついに5年生。これは大学院進学など心配はいらぬ。規定通りそのまま進めばよい。6年間の在学期間に対し、9年間茨城県で医師として働けば、奨学金・授業料等は返さなくてもよい。

中姉は国際医療福祉大学看護学科4年生。早くも21歳で、これが今、というより、大学院進学かどうかで悩んでいるところ。本人は大学院に進み、看護学科のありとあらゆる免許を取得したいらしい。またすべての免許を取得して、

1番若い全能の看護師を目指している。末孫娘は国立大学2年生。之がひょうきん者で、有名国立大学へ自分の夢を手紙に書いて送ったら1回の面接口頭試験で、合格通知を受けてしまった。変わり者故、大学で注目しているらしいが、順調に進級している。末孫娘の夢とは、即ち爺である私の夢そのもの。アフリカで国連職員として、野生動物の保護活動をしたい。命的に戦いたいらしい。

わたくしもかなり真剣に国連の仕事を夢見たが、孫娘がほんきでそんな風に受け取って居るとまで思いも及ばなかった。こうなったからには、私にも重い責任が有る。ヤレルダケやってみたらよしい。人類はこれまで、やりたい放題。多くの種を絶滅に追いやり、棲む環境を荒らし放題。あれ程保護しても未だに象牙の密猟が行われ、繁殖率

8%に対し、密漁率12%と言われるから、これでは密漁は増えるだけ。国連の監視はもつともっと強化しなければならぬ。

【特別企画】

打田昇三の平家物語

巻第十一 (二・二)

高野巻 (こやのまき) のこと

短い章段であるが、内容は屋島から抜けて来た平維盛の消息と高野山の開山縁起である。現在の高野山金剛峯寺は信徒一千万と言われる高野山真言宗四千ヶ寺の総本山であり、豊臣秀吉が亡母菩提の為に建立した青巖寺と言う寺を明治二年に改称したと言われるから平家物語の頃の寺名は分からない。当時は高野山だけで良かったのか？

瀧口入道は、仏門に入る前の現役時代に平重盛にも仕えたから維盛のことも知っていたが、平家は屋島に居ると思っていたので、遙々と自分を訪ねて来た三位中将維盛を見て驚いたのである。

「是は夢であるるか…それにしても屋島から此処まで良くぞ御無事で来られました」と言えば、「…実は、一門の者と一緒に都を逃れて西国に下ったけれども、残して来た幼い者たちが恋しくて忘れることが出来ず、それが知らず知らず態度に現れたようで、大臣殿(平重盛)も二位殿(清盛未亡人)も此の者(維盛)は池の大納言(平頼盛)清盛の異母弟・母親の池禪尼が少年時代の源頼朝を助けた」の様に二心(ふたごころ)有り、などと警戒をされ何事も疎外されるように思えて、平家一門として生きていても仕方がない…と逃れ出たのです。後は、どの様にしても山伝いに都へ行き恋しい子らに会おうとしたのですが、本三位中将(重衡)

が(市中引き回しなど)屈辱を受けたことを知って都へも入れず、それならば出家して火の中水の底にも沈もうと覚悟を決めました…しかし、どうせならば(生前に父・重盛が信仰していた)熊野へ参つてから…と思つたのです…」と、切ない心中を打ち明けた。それから、維盛は瀧口入道を先達として高野山の堂塔を参詣した。奥の院谷に置かれた弘法大師の廟所にも参詣したのである。(此の後の文章は高野山縁起になる)

—高野山は帝都(平安京)を離れて二百里、人里を隔てて声無し。青嵐梢を鳴らして夕日の影静かなり。八葉の峰・八の谷(実際には八峰九谷、誠に心も澄みぬべし。花の色は林霧の底にほころび、鈴の音は尾上の雲に響けり。瓦に松生い、垣に苔むして星霜久しく覚えたり。そもそも延喜の帝(醍醐天皇)の御時、御夢想の告あつて、蘇芳色(すおういろ)暗紅色の御衣を進上せられし時に、勅使・中納言資澄卿が奈良・般若寺の僧正・観賢(般若寺を再興した高僧)を同伴し、此のお山に参り、御廟の扉を開き御衣を着せ奉ろうとするも霧深くして大師の姿拝めず。此処に観賢、深く悲しみの涙を流し「我れ、慈母の胎内を出でて、師に教えを受けて以来、未だに禁を冒さず、戒を犯せず…されば、なかば拝み奉らざらん」私は修行一筋で仏に仕えているのに霧が邪魔するのは酷いでは有りませんか!」と、五体を地に投げ涙を流し懇願せしところ、ようやくにして霧晴れ、月現れて大師の姿、拝むを得たり。時に観賢、随喜の涙を流して御衣を着せ奉る。御くし(頭髮)の長く生いさせ給いたりしかば、剃り奉るこそ目出たけれ。勅使と僧正とは拝み奉り給えども、僧正の弟子・石山の内供(なぐさ)宮中に奉仕する僧侶(淳祐)菅原道真の孫は其の時に未だ童形(稚児の姿)にて供奉せられたりけるが、大師を拝み奉らずして嘆き沈んでおわしけるが(淳祐が残念がっていたので)僧正、手をとつて、大

師の御膝に当てられしかば其の手、一期が間、香ばかりけるとかや。其の移り香は石山の聖教(石山寺所蔵の經典)に移つて、今に有りとぞ承る。大師、御門の御返事に申させ給いけるは「われ、昔、菩薩に逢いて目の当り悉く印明(いんみん)手印を結び、口に真言を唱える」を伝う。無比の誓願(真言仏教を広める)を起こして、辺地の異域(インドから見た高野山)に侍り(はんべり)控える、昼夜に万民を憐れんで、普賢(菩薩)の悲願に住す。肉身に三昧を証じて(雑念を払つて)慈氏の下生を待つ(弘法大師が成仏した)——と申された。

釈迦の十大弟子である摩訶迦葉(まかかしよう)が釈迦の袈裟を受け、古代インドのマガダ国に在った鷄足の洞に籠つて弥勒(釈迦に次いで仏になると約束された菩薩)の出現を待つたのも、この様な状態であつたらう。弘法大師の御入定(死)は承和二年(八三五)三月二十一日、午前四時半頃とされるから、既に(瀧口入道の時代に)三百余年も過ぎているが、行く末(仏教的な未来)は五十六億七千万年の後であり、仏が此の世に出現して説法を行つてくれる迄は未だ長い。

維盛出家(これもりのしゅつけ)のこと

前の章段は此の章段の前座のようなものであるが、それにしては難解で退屈で無駄で長過ぎた。平家物語に何処かの坊さんが手を加えたことが良く分かる内容である。読むだけで疲れるけれども気を取り直して話を進める。

夢も希望も無くした平維盛は、平家の陣を抜け出してから最終的には父親・平重盛が信仰していた熊野へ行く心算で有つたと思うが、途中で高野山に寄つたのである。高野山に瀧口入道が居ることを知つて、何か助言を求めたのかも知れないが自分で決め

られない道は他人に決められる道理が無い。此の章段の書き出しに「維盛が身の、何時

と無く雪山の鳥の鳴くらんように、今日よ明日よと思ふものを」とある。此の鳥は、ヒマラヤ山中に棲んで夜の寒さに苦しみ、夜があけたら暖かい巢を作ろうと鳴くのだが、暖かくなると其れを忘れて、毎夜、同じ苦しみを繰り返す：寒苦鳥と言う伝説(仮空)の鳥らしいが単なる馬鹿鳥？

瀧口入道の庵室に泊めて貰った平維盛は苦しい胸の内を打ち明けた。船上の平家逃亡(流浪)生活が長かつた為に日に焼け、心配事で瘦せ衰えて、とても優雅だった平家の若武者には見え無いが、それでもお坊ちゃんの面影は偲ばれる。二人は世を徹して語り明かした。維盛が瀧口入道の起居動作を見ると深い信仰心に基づく修行の跡が見えて仏道の真理を探究している様子がわかる。決められた時刻に鳴らされる高野山の鐘の音は、人間の生死に関する迷いの夢を消すように心に響き渡ったのである。維盛は、出来るならば此の瀧口入道の様な暮らしをしたい、と思ったことであろう。

維盛は南谷の東禅院に居た智覚上人に頼んで出家をしようと思つた。供として従っていた与三兵衛と石童丸を呼んで「私は都に残して来た妻子への思いを胸にしなから、其の窮地を逃れることが出来ないため此処で出家をする。或いは生きて居ないかも知れない。私のことは忘れて、お前たちは都に上り、誰か榮えている人に仕えて妻子を育み、出来れば私の後生を吊って欲しい」と、言えば、二人の供は「さめざめ」と泣いて暫くは返事も出来なかつたが、やがて与三兵衛が涙を抑えて

「私の父親・与三左衛門景康(よそうざえもんかげやす)は、平治の乱に故殿(清盛)のお供で出陣しましたが、二条堀河の辺りで鎌田兵衛(平将門を討った藤原秀郷の子

孫、源義朝の乳母の子)に組んだところで悪源太(頼朝の兄・義平)に討たれました。此の重景も武勇・忠誠心で父親には劣りません。幼名を松王と言いましたが、父に死別したのは二歳の時でしたから何も覚えて居らず母親にも七歳で死別しているのです、死後に悲しんでくれる者は誰も居ませんが、亡き内大臣殿(重盛)から「あの者は我が命に代わりし者の子なれば」と身近に育てて頂きました。私が九歳の時に維盛公が元服をされましたが其の夜に私も元服をさせて頂き、「盛」の字は平家に伝わる文字なので維盛に付ける、「重」の字を松王に着けよ!と仰せ頂き、重景と名乗るようになりました。さらに幼名を松王と申しましたことも、生後五十日の忌明けの日に父親が抱いて内大臣にお目に掛けた際に、此の家は「小松」と呼ばれるから祝いに松王とせよ!と仰せ頂き、名付けられたものです。

その様な次第ですから、父親のように平家の為に死ぬことは私の冥加(みよが)が目に見えぬ神仏の加護と思っております。そのお蔭で仲間たちにも親切にして貰っていました。重盛公は現世への執着を断ち切つておられたので御臨終の御時も何も仰せられませんでした。此の重景を召されて「汝は此の重盛を父親の形見と思ひ、重盛は汝を景康の形見と思つて過ごしてきた。次の除目(じもく)大臣以外の定期昇任人事では左(右)衛門尉にして父親の景康と同じ呼び名にしようと思つていたのに(自分の死により)其れが出来なくなつてしまった。この後は良く心して少将殿(維盛)の意に違わぬようにせよ!」と仰せになりました。その様な次第ですから貴方様の御身に如何なることが起きようとも、私が見捨てることは無いのに、只今のお言葉は残念です：誰か榮えている人に仕えよ!と仰せですが、今の時代で景気が良いのは源氏の関係者ばかりですし、貴方様が神にも仏

にもなられた後に、残された私たちが例え安楽に暮しても千年も万年も生きられる訳では無いのです。それを考えると仏門に入る機会は今しか有りません：」

その様に言い切ると、与三兵衛重景は自分の鬘(まげ)を切り、涙ながらに瀧口入道に頼んで頭髪を剃り上げて貰った。是を見た石童丸も同じように髪を切つた。此の者は八歳から維盛に仕えている重景同様に忠義な家臣(小姓)であった。

自分が後事を託そうと思つていた二人の忠臣に先を越された維盛は一層、心細くなり、遂に自分も仏門に入る決心をしながら、状況に追い込まれて「流転三界中、恩愛不能断、棄恩入無為、真実報恩者(るてんはさんがいのうちにあり、おんあいはたつことあたわず、おんをすてむに在る、しんじつほうおんのもの)」と三度、唱えた後に遂に出家したのである。それでも「仏門に入る前の姿で妻子にもう一度逢いたかつた!」と言う言葉に尽きせぬ未練が現れて罪深い事である。

三位中将維盛と与三兵衛重景は二十七歳、石童丸は未だ十八歳になつたばかりであった。

維盛は、船頭(ふねづか)がわりに連れて来た武里を呼んで「お前は是から屋島へ戻れ。都に行つてはならない。その理由は、何れは分かつてしまふかも知れないが、三人が出家をしたことが知れると(北の方が)尼になる、などと言ひ出すかも知れないからである。屋島へ戻つたならば(平家の人々に)次の様に申し上げれば良い。此の維盛は、前々から御承知のように世間のことが疎(うと)ましく思えるようになり仏門に入る望みが強まつたので高野山で出家を致します、西国で左近衛中将(平清盛)が亡くなり、一の谷で備中守(師盛)が討たれて、今度は私が勝手なことをするのは心苦しいのですが、どうかお許し下さい。つきま

しては、平家嫡流に相伝の唐革の鎧と小鳥の太刀は、将門を討った平将軍貞盛から当家(金重盛)に伝わり、此の維盛で九代になります。現在は肥後守貞能に預けて有ります。(貞能は平重盛未亡人を護って常陸国に来て居る)もし平家が態勢を立て直し、再び都に戻れた場合には其れを六代(維盛の嫡男)に伝えるようお願い致します……

言われた武里は、伝言が長くて覚え切れない、と思つたのか。「維盛殿が、どの様になるのか見届けてから屋島に行きたい」と申し出た。「それならば……」と同行を許されて瀧口入道に連れられた平維盛、与三兵衛、石童丸、武里の一行は山伏のように高野山を出て熊野街道が通る現・和歌山市内の山東庄へ向かつたのである。

熊野には京都からの道筋に藤代の王子を始めとして九十九の王子が祀られており、参詣者の道しるべや休憩場所にされていたらしい。平維盛らも其れを頼りに熊野本宮を目指して行く途中、千里が浜の北(田辺市西北方)に置かれた岩代王子の前で狩り装束をした七、八騎の武士に遭遇した。

源氏・平家どちらに付く武士団でも、今は自分たちが狙われる立場であることを覚悟した維盛らは自害の準備をしながら近づいたのだが、相手側は馬を下り丁寧に礼をして行き過ぎた。その武士は地元・紀伊国の住人・湯浅権守宗重の子で湯浅七郎兵衛宗光と言う者である。

維盛一行も驚いたが湯浅の家臣も驚いて宗光に「あの方はどなたですか?」と訊ねた。宗光は涙を浮かべ「口に出して言うのも恐れ多いが、あの方こそ小松大臣殿の御嫡子・三位中将殿である。屋島から此処まで、どの様にして逃れられたのであろうか?お姿を変えられ、与三兵衛も石童丸も出家姿でお供をしている……本来ならば、近くに寄って御挨拶

をしたかつたのだが、お気使いをされると思つて遠慮をさせて頂いた。それにしても、あの御様子の哀れなこと、何が有つたのであろうか?」と袖を顔に当ててさめさめと泣いていたので家臣たちも思わず同情の涙を流したのである。

熊野参詣(くまのさんけい)のこと

現代は「信教の自由」が憲法に保証されているから面倒ならば自分で適当な神仏を祀り上げて信仰することが出来るけれども、源平時代には神仏はメーカーものでないと効果が期待出来なかつたようで切羽詰まつた平維盛も屋島を抜け出して高野山に行き、更に熊野にやつて来たのである。

平家物語本文には「やうやうさし給ふ程に日数(ひかず)ふれば岩田河にもかかり給ひけり……」とある。此の川は現在の南紀白浜空港近くを流れる富田川と考証されている。川沿いの道が熊野街道へと通じる朝来街道であるから其の道を辿つて熊野本宮に参詣したのであろう。古くから「岩田河を渡れば悪業・煩惱と前世からの罪障が消滅する」と、都合の良いことが言われていたので平維盛の一行も精神的には安堵した。

本宮に着いて六殿に分かれた第三殿の証誠殿に参り仏殿に経を読み熊野の聖域を拝めば、自分の思つていたことも言葉に出来ない。山々にたなびく雲霞は神仏の大慈悲であり、音も無く流れる川は無双の靈験を顕している。法華修行の岸辺には月の光が限なく照らし、懺悔告白の庭には妄想の露も無く、神仏の加護が頼もしく思われる。

維盛は夜が更けてから密かに社殿に参つて祈りの言葉を捧げた。かつて父の平重盛が熊野に参り「自分の命を召して世を救い給え!」と祈願されたこと

を思い出して哀れである。「此の山(熊野)の権現本地仏は阿弥陀如来であるから、念仏する衆生は漏れなく救つて下さる、という本願に過たず(あやまたず)浄土に導き給へ!」と祈る心の中にも「故郷(京都)に留めてある妻子の無事」を願っている(此の世への未練が捨てきれない)此の身が悲しい。浮世を厭(いと)、誠の道に入りながら、なお俗世の執着に囚われるのは誠に哀れと言うほかは無い。

それでも其処に長居は出来ないで、夜が明けてから本宮で乗船し、熊野川を下つて新宮(熊野速玉神社)へと向かつたのである。付近一帯の神域を見れば松の木が根差した岩山が高く聳(そび)えて吹き渡る風が妄想の夢を破り、流水は清く、川波は、煩惱に穢れた心身を清めてくれるようである。河口近くにある阿須賀神社を伏し拝み、佐野の松原を過ぎて熊野那智大社に参詣した。

三重にみぎり落ちる滝の水、高さは数千丈まで打ち上り(実際には百数十メートル)、観音の靈像は岩の上に現れて(那智開山伝説)補陀落山(ふたらくさん)観世音菩薩が居ると言うインドの山)とも呼ばれる。霞が掛かつた谷底からは法華経の音が聞こえたとも言われている。また熊野権現は唐の国・天台山から来たと言われて那智が法華信仰の拠点となつていた。その為に靈鷲山(りょうじゆせん)釈迦が山岳修行をした印度の山)とも呼ばれるのである。

そもそも、那智の飛瀧権現(ひりゅうこんげん)本地仏は千手観音、が此の地に垂迹されてから我が国のあらゆる階層の男女が訪れて頭を下げ合掌して御利益にあずかつた。その為に僧侶が僧房に住み、出家した者、俗世の者など参詣者が跡を絶たないのである。

寛和二年(九八六)六月には花山法皇が従兄弟の七歳になる一条天皇に譲位してから、極楽往生するための修行をされた庵室の旧跡には昔を偲ぶように老木

の桜が咲いていた。(花山天皇は精神的に不安定で、在位二年二十二歳で藤原兼家に騙され出家をさせられた)

那智に籠って修行をしている僧のなかに平維盛を見知っている者が居て仲間の僧たちに言った。

「此処に滞在されている修行者の顔を見たことが有るので思い出したが、あの方は小松の大臣殿の御嫡子・三位中将殿である。未だ四位の少将であられた安元二年(一一七六)の春に法住寺殿で後白河法皇の五十の賀が行われた時に拝見をした。当時は小松殿が内大臣・左大将であり、宗盛卿は大納言・右大将で(法皇御座の)階下に着座されていた。そのほか、三位中将知盛、頭中将重衡以下、平家一門の人々が今を盛りと、時めいておられて舞樂の舞のときに舞台の下の庭に垣根の様に円陣を作って並んだ中に、

此の三位中将は桜の花を翳(かざ)して清海波(せいはい)は華麗な兜(かぶと)で舞う二人舞を舞われた。そのお姿は露に媚びる花の様な風情が有り、舞い姿の袖は地を照らし天を輝かせるほどであった。舞いの褒美に建春門院(高倉天皇の生母・平時子の姪・慈子)から関白・藤原忠通を通じて衣類が下賜されたので、父の大臣(重盛)が座を立てて頂戴し、是を維盛の右肩に掛けてから院に拝礼した。其の様が優美で他の参集者は、どれ程に羨ましく思ったであろう。内裏の女房たちから“奥山の緑木の中に咲き誇る桜梅のようと言われた御人である。(世が世であれば)大臣・大将と…と想っていたのに、此の様にやつれたお姿でお目に掛かるとは…移り変わりは世の習いとは言いがら何とも哀れである…”

言い終わった僧は、袖を顔に押し当てて同情の涙を流した。周りに居て此の僧の話聞いた修行僧(那智籠りの僧)も気の毒になつて思わず貴い泣きをしたのである。

維盛入水(これもりのじゅすい)のこと

入水と言つてもプールなどに入る訳では無く水の中自殺をするのであるから気の毒には思うが、平家滅亡を前に生きる希望を失つた武將が戦場以外で密かに確実に武器を使わずに死ねる手段は山中の飢え死にか水中窒息しか無いのである。

熊野三山(本宮・新宮・那智)の参詣を終えた平維盛らの一行は、那智勝浦に在る浜の宮(九十九王子の一つである渚の宮)の前から小船に乗り海に漕ぎ出した。原本には「万里の蒼海に浮かぶ遙かの沖」と書いてはあるが手漕ぎの小船であろうから熊野灘に出る迄も無く紀伊半島から少し離れた小島に着いたのである。岸边に生えた松の大木を削り、維盛は其処に自分の官位・姓名・年令等を書き付けたのである。

「祖父太政大臣平朝臣清盛公・法名淨海、親父内大臣左大将重盛公・法名淨蓮、三位中将維盛・法名淨円・生年二十七歳、寿永三年三月二十八日、那智の沖にて入水す」；其の後、さらに沖のほうに船を進めたが、思い切つた道ながら今は是までと思つと(当然のことだが)心細く悲しい。

春の海は海路遙かに霞に曇り哀愁を誘う。何事も無い春でも何となく寂しい気分になるのに今日限り自殺をしようと思つた者が、楽しくなれる筈が無い。少し沖に居る釣り船が波に吞まれて沈みそうに見えるのを目にしても我が身の上で思えてくる。海の上には、一群を率いて帰る雁がねが北陸地方を目指して鳴きながら飛んで行く。それを見て「故郷(家族)に伝言をしたい」と思うが、蘇武の執念(巻第二)のように思い残すことは無いとは言いがら、どうしたことか最後になると(家族などへの)未練執着が尽きない。

是ではいけないと、思い直して西に向い手を合わせ、念仏を唱える心の中にも「もう最後であると都

(家族)に知らせる方法は無いが、風の便りでも待っている家族が(既に私が居ないと知れば)どの様に嘆き悲しむであろう…」などと余計なことに気付いては念仏を止め、合掌を解き、同行した瀧口入道に向かつて悲しげに述べた。

「武士と言ふ立場に居る者は)やはり妻子を持つてはならなかったのですね。自分が幾ら覚悟を決めても此の世に未練が残るだけで無く後世菩提の妨げになることが悔やまれて成りません。この様な状態で生命を捨てても罪が深くなるであろうと懺悔するばかりで…」

瀧口入道も気の毒には思うが、此処で同情していたのでは出家した立場が無くなるので、涙を隠しさりげなく説き伏せるように言う。

「そのお気持ちには尤もなことです。身分が有る者も一般の庶民も恩愛の情は言葉では表せないものであり、特に夫妻の縁は一夜の枕を並べるも五百生の宿縁と言われて前世の因縁が浅からぬものですが、涅槃経(ねはんきょう)に言う生者必滅(生き者定離)しようじやくめつえしやじょうり)は浮世の習いであり、草木の葉に溜まる露も樹木の根元から落ちる水滴も共に遅かれ早かれ消えて無くなるものです。それを思えば、遅い早いは有つても別離は避けることが出来ません

かつて唐の玄宗皇帝が離山宮で秋の夕べに楊貴妃と永遠の夫婦の愛を誓つても、遂には長恨歌伝に有るような悲しい別れが訪れるものです。また漢の武帝が秦の離宮を改造して甘泉殿を建てたのは先立たれた李夫人を偲(しの)ぶのであり、漢の時代の仙人と言われた松子(赤松子)と梅生(梅樞)も遂には死を免れず、仏道で菩薩に成る為の修行をした等覚、十地などの人物も生死の掟に勝つことは出来ず、和漢朗詠集にある長生の樂を得た人物でも死を免れない

と言う悲願は叶うことが出来ませんでした。

たとい百年の寿命を保つ人物でも、此の悩みはどうすることも出来ないのです。欲界の魔王と言う異端者は六天と言われるその範圍を支配して、其処の衆生が生死により其処を離れることを妨げる為に或いは妻となり、或いは夫となつて妨害したのですが過去・現在・未來三世の諸仏は一切の衆生を一子のように思われて極楽浄土に招かれ仏たちが迷うことのないようにされて居られます。そう言う次第ですから、どうか御心を強くされて極楽浄土に先立たれますように…。

源氏の先祖である伊予守入道頼義（八幡太郎義家の父）は、勅命を受けて奥州の安倍貞任・宗任を攻めて十二年間に人の首を斬ること一万六千、

山野の獸と河川の魚類を殺すこと幾千万と数知れず、血なまぐさい人生であつたが臨終に際して一念の菩提心を起こした事により大往生を遂げることが出来たのです。特に出家することにより得られた功德は大きいものであつて、祖先の罪障は悉く消滅することを得ました。例え誰かが七重の塔を建て、其の高さが三十三天（仏教界の尺度）に達しても、其の功德は誰かが出家する一日の功德には及ばないものです。

また誰かが百年、千年に亘り百人の羅漢（らんかん・阿羅漢）釈迦の身边に侍して説法を聞き、仏法の教義を開いた者を供養した功德も、一日の出家の功德には及ばずと仏書に書かれております。それを考えますと罪深き源頼義は心が猛きゆえに往生を遂げることが出来たと云えるでしょう。

其れに比べれば維盛殿は、是と言つた罪豪は有りませんから、必ず浄土に行くことが出来ます。さらに熊野三山の中心である熊野本宮の熊野権現は本地（仏教的な祭神）が阿弥陀如来であり、此の仏が持つ四十八願の第一願は、無三悪趣（むさんあくしゅ）地獄・餓

鬼・畜生の三悪趣を除くことです。それから、終りの願

である「得三寶忍（とくさんぼうにん）諸菩薩に眞の悟りを開かせること」まで、一つ一つの誓願が全て衆生を救う為のものです。中でも第十八の願には設我得仏、十方衆生、至心信樂、欲生我國、乃至十念、若不生者、不取正覺（せつがとくぶつ、じつぼうしゅじょう、しんしんぎょう、よくしょうがこく、ないしじゅうねん、じやくふしようにや、ふしゅしょうがく）自分が仏になれても、衆生（一般の人々）が眞實の心で如来の請願を信じ、極楽浄土に生まれたいと念願して果たせないようであれば自分は眞の仏になれない…と書かれていますから一度の念仏でも、十度の念仏でも眞心をもって唱えれば往生は出来るのです。只々、深く信じて、疑の心を抱いては成りません。阿弥陀如来は遙か遠くで御身を小さくされて人間の倍ほどの大きさになり觀世音菩薩、勢至菩薩、無数の聖なる大衆、姿を変えた仏身などに幾重にも取り囲まれて現れ給い、伎樂歌を詠じて極楽の東門を出でて（此の世に）出現されるのです。したがつて、維盛殿が身を投げて海底に沈んでも諸仏の救いにより紫雲に昇ることが出来て、生死の苦から解脱し悟りを開いて仏になれば、やがて現世に居る妻子を導くことも出来るでしょう。還

来穢国度人天（にんてんをどしてえこよりかえりきたる）疑つてはなりません！…瀧口入道は鐘を鳴らしながら、平維盛の煩惱を打ち消す長い説教を終わつた。科学的根拠は無いが、其処まで言われると平維盛も来世を信用しない訳にはいかず、遂に妄念を振り切つて西に向かい手を合わせ、高らかに念仏を繰り返してから「南無！」の声と共に海中に身を投じた。是に続いて与三兵衛重景も石童丸も念仏を唱えながら維盛の後に続いていった。

此の後の章段「三日平氏」に、入水した維盛から遺言を託された武里の話があるが平家滅亡を控えて状

況が大きく変わってくるので別稿とする。

残して来た妻子を想いながら、自らの命を絶つた平維盛の心中は哀れであるが、此の人は平清盛―重盛―維盛…と続く平家嫡流の人物であるから、熊野灘に身を投じるようなことは相応しくない。尤も、源頼朝によつて平家は根絶やしにされる訳であるから（池禪尼の子である頼盛を除き）所詮は助からなかつたかも知れないが…。

巻第七「維盛都落」に書いたように父親の平重盛の遺骨は京都から茨城県に移されている。忠臣の平肥後守貞能が相應院（重盛未亡人）と共に遺骨を護り常陸国の大掾氏を頼つて来たのである。（続く）

ふるさと風の会会員募集中!

当会では、「ふるさと（霞ヶ浦を中心とした周辺地域）の歴史・文化の再発見と創造を考える」仲間達を募集しております。

自分達の住む国の暮らしと文化について真面目に考え、声高くふるさとを語り、考える方々の入会をお待ちしております。

会の集まりは、月初めに会報作りを兼ねた懇親会と月末に雑談：勉強会を行っております。

会費は月額2,000円。（会報印刷等の諸経費）

※入会に関するお問い合わせは下記会員まで。

打田 昇三 0299-22-4400 兼平智恵子 0299-26-7178

伊東 弓子 0299-26-1659 木村 進 080-3381-0297

編集事務局 〒315-0014 石岡市国府 4-3-32 (木村)

HP <http://www.furusato-kaze.com/>